

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業名 : 一般国道4号 土屋バイパス <small>つちや</small>	事業区分 : 一般国道	事業主体 : 国土交通省 東北地方整備局
起終点 : 自：青森県東津軽郡平内町大字中野 至：青森県青森市大字浅虫 <small>あおもりけんひがしつがるくみひらないまちあおさなかの</small> <small>あおもりけんあおもりしあおさあざむし</small>	延長 : 4.2 km	
事業概要 : 土屋バイパスは、平内町や青森市内における国道4号の隘路区間の解消、歩行者空間の確保、緊急輸送道路の信頼性の向上等を目的とした4.2kmの4車線道路である。 <small>つちや ひらないまち あおもりし</small>		
S60年度事業化 S62年度都市計画決定 H4年度用地着手 H9年度工事着手		
全体事業費 : 170億円 事業進捗率 : 59% 供用済延長 : 0.4km		
計画交通量 : 16,700台/日		
費用対効果分析結果	B/C : (事業全体) 1.9 (残事業) 4.8	総費用 : (残事業)/(事業全体) 76/193億円 (事業費 : 58/174億円) (維持管理費 : 17/19億円)
総便益 : (残事業)/(事業全体) 359/359億円 (走行時間短縮便益 : 348/348億円) (走行費用減少便益 : 8/8億円) (交通事故減少便益 : 3/3億円)		基準年 : 平成18年
感度分析の結果 : 事業全体・残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量変動 : B/C=2.0(交通量+10%) B/C=1.7(交通量-10%) 事業費変動 : B/C=1.7(事業費+10%) B/C=2.0(事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=1.5(事業期間+20%) B/C=2.2(事業期間-20%) 【残事業】交通量変動 : B/C=5.2(交通量+10%) B/C=4.3(交通量-10%) 事業費変動 : B/C=4.4(事業費+10%) B/C=5.2(事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=4.5(事業期間+20%) B/C=5.0(事業期間-20%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減） ・災害への備え（代替路線の形成）		
他10項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 土屋バイパスは平内町や青森市内における国道4号の隘路区間の解消、歩行者空間の確保、緊急輸送道路の信頼性の向上等に重要な役割を果たすことが期待されており、青森市長をはじめとする首長で構成される青森地区国道協議会等より、早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：100億円（進捗率 59%） うち用地費：22億円（進捗率 96%）		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗にかかる問題は解消し、東津軽郡平内町土屋地内のL=0.9kmについて、平成19年度の暫定2車線供用を目標に事業推進を図る。平成20年代前半の暫定2車線全線供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 橋梁形式の決定にあたっては、陸奥湾内の流潮に影響を与えない埋立て範囲の詳細検討と番所地区の漁港施設（船揚場）及び付替道路の細部調整でA2橋台の構造見直しが可能となり、橋長の短縮（減11.5m）によるコスト縮減を図った。		
対応方針 : 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		
<p style="text-align: center;">(終) 青森市大字浅虫 (主) 夏泊公園線 (起) 東津軽郡平内町大字中野</p> <p style="text-align: center;">[事業再評価] 一般国道4号 土屋バイパス L=4.2km</p> <p style="text-align: center;">T'05=17,536台/日 T'05=18,428台/日 T'05=16,694台/日</p> <p style="text-align: center;">(県) 小豆沢西平内(停)線 (県) 西平内(停)線 JR東北本線</p> <p style="text-align: center;">(県) 久米坂通道路 (県) 増田浅虫線 平内町</p> <p style="text-align: center;">H16.11 供用済 L=0.4km(2/4) H19 供用予定 L=0.9km(2/4) 事業中 L=2.9km(2/4)</p>		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。